

## 妊娠17週で常位胎盤早期剥離を起こした、 絨毛膜下血腫合併妊娠の一例

こ ばやし まさ ゆき かん の こう すけ  
小 林 正 幸 菅 野 晃 輔  
つぼ くら かおり  
坪 倉 かおり

キーワード：常位胎盤早期剥離，絨毛膜下血腫，播種性血管内凝固症候群（DIC）

### 要 旨

今回我々は妊娠12週から絨毛膜下血腫を認め、切迫流産にて加療，経過観察していた症例で，妊娠17週4日に急激な激しい腹痛と破水感があり，救急搬送され，常位胎盤早期剥離，前期破水，播種性血管内凝固症候群（DIC）と診断し，緊急帝王切開を行った症例を経験した。妊娠17週でも常位胎盤早期剥離の病態は発生し，DICも併発し得ること，発生した時には胎盤の早期娩出，DIC治療が必要であることが認識された。またこの症例は絨毛膜下血腫が常位胎盤早期剥離を惹起した可能性が否定できず，絨毛膜下血腫が持続する症例は，慎重な管理が必要であると思われた。

### はじめに

常位胎盤早期剥離は母児共に重篤な状態になりうる疾患であるが，流産期での発症に関しては殆ど報告がない。今回妊娠12週に出血と絨毛膜下血腫を認め，加療，経過観察を行っていた症例で，妊娠17週で常位胎盤早期剥離を起こし，DICを併発し，緊急帝王切開をおこなった症例を経験したので報告する。

### 症 例

症例は34歳女性の2回経産婦であり，既往歴に

は上室性頻拍にてアブレーション手術と2人目出産後の鬱病歴がある。2人目の妊娠期に妊娠糖尿と診断された。今回妊娠中も75g GTTにて84-191-149の1点異常の妊娠糖尿と診断され加療していた。12週5日に出血を訴え受診され，切迫流産の診断にて入院し止血剤子宮収縮抑制剤の治療が開始された。13週2日症状軽快退院となったが，入院中25×14mmの絨毛膜下血腫が認められていた(図1)。退院後は止血剤，子宮収縮抑制剤の内服にて経過をみていた。たまたま褐色の帯下を認める程度で腹痛はなかったが，51×25mm程度の絨毛膜下血腫は妊娠17週1日の時も確認できた。妊娠17週4日に，急な腹部激痛，破水感，気分不良あり救急搬送された。搬送時水溶性血性羊水流出現あり，チェックプロム陽性，超音波にて羊水は

Masayuki KOBATASHI, et al.

独立行政法人国立病院機構浜田医療センター 産婦人科

連絡先：〒697-8511 浜田市浅井町 777-12

浜田医療センター